

「あん」

(15年、監督・脚本：河瀬直美、原作：ドリアン助川)

## 「店長さん、有難う。働かせて貰って本当に楽しかった…」

—人生を閉ざされたハンセン病の老女とムショ帰りの中年男、絆はあん作り

映画・健康エッセイスト 小守 ケイ

「求人、私はだめ？ 少し指が不自由だけど」。桜が満開の東京、東村山市。「どら春」に近くのハンセン病療養所“天生園”的入所者、76歳の徳江が来る。黙々とどら焼きの皮を焼く40代半ばの店長、千太郎は、どら焼きを一つ渡して断るも、徳江は夕方、再び店へ。「お宅のあん、ちょっと…。私の作った粒あん、食べてみて」。一旦はゴミ箱に棄てた千太郎、なめてみると美味しい！



「指？ 何ってことないけど、見た目がね」。

「手伝って下さい」。新緑の頃、徳江が店を覗くと、千太郎が寄つて来る。「嬉しいわ！」。連絡先を書く徳江の手は、甲が赤く変色してコブもでき、指は親指と人差し指以外、曲がって動かない。「今まで誰があんを？」。見回すと、一斗

缶の業務用あんが！

「どら焼きは、あんが命よ」。  
翌朝、夜明け前から店に出た徳江は、千太郎に教えながら丁寧にあんを炊く。連日飛ぶように売れ、店は繁盛



### ハンセン病患者のいわれなき苦難

【監修】公益財団法人結核予防会 理事  
総合健診推進センター 所長 宮崎 滋

ハンセン病は原因のらい菌の感染力が弱いため、乳幼児期に患者と濃厚な接触がない限り、感染も発病もしません。また、らい菌は毒力も弱く内臓臓器を侵さないので、ハンセン病が原因で死亡することはありません。主な病変は皮膚の発疹や結節と、発疹に一致する知覚鈍麻や麻痺で、らい菌が皮膚や末梢神経を

するも、ある日、オーナー夫人—千太郎が傷害で服役中に被害者への慰謝料を立替て貰った—が現れ、「天生園の人？ 噂が広まつたら終わりよ。辞めさせて」。

### “あん作り”は逆境を生きる知恵

失意の千太郎は翌朝、出勤できず、徳江があんに加えて皮も焼き、どら焼きを作つて完売する。翌日、それを聞いた千太郎は彼女を守ろうと決意、「ここでは自由にやって結構です」。喜んだ徳江は、常連客の中学生3年生、ワカナ達とも楽しく交わるも、突然ワカナが「指、どうされたんですか？」。徳江は「若い頃の病気で曲がった」と答えるが、ワカナは図書館でハンセン病を調べた。

「もう終わりに」。急に客足が途絶え、千太郎の酒や煙草も増えた秋。事情を察した徳江が去ると、ワカナは“徳江の指について母親に告げたこと”を、千太郎は“徳江を守れなかった自分の不甲斐なさ”を悔いる。

「来てくれたのね」。紅葉が美しい天生園。徳江は千太郎とワカナに善哉を振舞い、「あん作りは生きる知恵。店長さんも必ず自分のあんを作れるわ」。その後、千太郎はあん作りに励むも店の改装で居場所を失い、再び徳江を訪ねると、3日前に肺炎で亡くなっていた…。

### ■ 映画の見所 ■

「何かになれなくても、私達には生きる意味があるのよ」。徳江は千太郎にあんの道具を遺し、徳江に亡母の面影を見た彼は、あんの完成を誓う。

カンヌ映画祭グランプリ監督の河瀬直美作。美しい四季の自然を背景に、長年の隔離生活から初めて社会に出た徳江（木暮希林）が自らの尊厳の拠り所のあん作りで生き生きと働き、その姿が千太郎（永瀬正敏）に新たな道を見出させる様を描く。



「あん」  
DVD 3,200円+税  
Blu-ray 5,800円+税  
発売元・販売元：ボニーキャニオン  
©2015映画「あん」製作委員会 / COMME DES CINEMAS / TWENTY TWENTY VISION/MAM/ZDF-ARTE

好んで侵すのは、増殖至適温度が31度のためです。

ハンセン病患者は、顔、手、足に重度の変形を生じる外見から長く偏見や差別に晒され、1931年のらい予防法により療養所に強制隔離され、結婚には断種、中絶が強制されました。

1947年に治療薬プロミンが開発され、その後リファンビシンやクロファジンなどで完全に治癒できるようになり、1996年に同法は廃止されましたが隔離は続き、2001年にやっと国は強制隔離の誤りを認め、患者に謝罪しました。